

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	北海道情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	大学併修科	夜・通信	770	320	
	システムエンジニア科	夜・通信	860/470	240	
	ゲームクリエイタ科	夜・通信	580	240	
	I Tシステム科	夜・通信	470/350	160	
	ゲームW e b 科	夜・通信	250	160	
	D Xマネジメント科	夜・通信	410	160	
(備考) システムエンジニア科およびI Tシステム科では、2年次のコース選択により実務経験のある教員等による授業科目の授業時間数が異なる。 ・システムエンジニア科：860 または 470、I Tシステム科：470 または 350					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校ホームページにて公表 https://www.hcs.ac.jp/syllabus

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにおいて公開 https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 H B A 代表取締役会長	2024. 4. 1～ 2025. 6. 19	法人経営
非常勤	社会福祉法人 北海道友 愛福社会 業務執行理事	2024. 4. 1～ 2025. 6. 19	地域貢献
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設・廃止を決定している。 実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式および記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。 これらのシラバスは、3月中旬までに作成・整備し、学生に対して3月下旬にホームページ上にて公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.hcs.ac.jp/syllabus
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート・課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では GPA を導入していないものの、5 段階の成績評価（秀・優・良・可・不可）を設けることで客観的な指標としている。これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。 成績評価については半期毎に通知する学業成績票に記載し、各自の評価平均点を示している。また、対象学科における「学年平均点と偏差値」を記載しており、学生は自身の概ねの位置（上位からの割合）を把握できる。学科・学年内の順位については、希望があれば個人ごとに開示する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.hcs.ac.jp/information
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) <卒業の認定方針> 教育理念および目標とする人材像に基づき、実践的な IT 人材として必要な以下の能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の科目を履修した学生に対して卒業を認定する。 ・情報システム開発の知識と技術を修得し問題解決に活用できる ・コミュニケーション力を持ち、他者と協働できる ・倫理観を持って行動できる <実施に係る取組> 「修業年限以上在籍」については主に出席状況、「所定の科目を履修」については成績評価状況を基に判断する。なお、出欠 及び 成績評価状況は、1 年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ、問題がある場合は適宜フォローを行いながら進級・卒業指導を行い、年度末には「進級・卒業判定会議」を行って、進級・卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.hcs.ac.jp/information

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	北海道情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline/
収支計算書又は損益計算書	https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline/
財産目録	https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline/
事業報告書	https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline/
監事による監査報告（書）	https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		専門課程	大学併修科				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼	3640 単位時間／単位	2144 単位時間 ／単位	1134 単位時間 ／単位	362 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			3640 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
160 人		210 人	0 人	7 人	2 人		9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。 実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。 それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。 ①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。
学修支援等
（概要） 中途退学への取組として、担任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
52 人 (100%)	1 人 (1.9%)	51 人 (98.1%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） IT コンサルティングやネットビジネスにかかわる IT 系企業をはじめとして一般企業への就職も果たしている。			
（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理技術者試験をはじめとする各種検定試験の取得実績のほか、コンテストなどへの参加実績がある。 【主な取得資格】 ・ 基本情報技術者試験（国家資格） ・ 情報セキュリティマネジメント試験（国家資格） ・ 応用情報技術者試験（国家資格） ・ 情報処理安全確保支援士試験（国家資格） ・ データベーススペシャリスト試験（国家資格） ・ ネットワークスペシャリスト試験（国家資格） ・ Oracle Certified Java Programmer (Oracle 社) ・ 情報セキュリティ技術認定基礎コース[CSBM]（SEA/J） ・ AWS Certified Cloud Practitioner (Amazon 社) ・ Microsoft Office Specialist (Microsoft 社) ・ 情報検定 情報活用試験（J 検） ・ 日本商工会議所簿記検定試験（日商簿記） など多数取得 【コンテスト等の参加・受賞実績】 ・ 「第 21 回ビジネスプロデュースコンペティション」準グランプリ 主催：全国専門学校情報教育協会 ・ 「第 20 回キャンパスベンチャーグランプリ北海道」 主催：日刊工業新聞社 ・ 「北海道起業家甲子園 2024」 主催：北海道総合通信局 など多数参加			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
227 人	5 人	2.2%
（中途退学の主な理由） 進路変更、病気、学校生活不適応・意欲低下、心神耗弱・疾患、経済的困窮が主な理由である。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		専門課程		システムエンジニア科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	2860 単位時間／単位		1414 単位時間 ／単位	1250 単位時間 ／単位	196 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
				2860 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
240 人		320 人	1 人		9 人		0 人		9 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。 実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。 それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。 ①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。
学修支援等
（概要） 中途退学への取組として、担任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
111 人 (100%)	2 人 (1.8%)	109 人 (98.2%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） システムインテグレータやソフトウェア開発を手掛ける IT 系企業をはじめとして一般企業への就職も果たしている。			
（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理技術者試験をはじめとする各種検定試験の取得実績のほか、各種コンテストなどへの参加実績がある。			
【主な取得資格】 ・ 基本情報技術者試験（国家資格） ・ 情報セキュリティマネジメント試験（国家資格） ・ 応用情報技術者試験（国家資格） ・ データベーススペシャリスト試験（国家資格） ・ 情報処理安全確保支援士試験（国家資格） ・ 情報検定 情報活用試験、情報システム試験（J 検） ・ 情報セキュリティ技術認定基礎コース[CSBM]（SEA/J） ・ Python3 エンジニア認定基礎試験（Python エンジニア育成推進協会） ・ Linux 技術者認定試験 LPIC（LPI 日本支部） など多数取得			
【コンテスト等の参加・受賞実績】 ・ SEA/J CTF for Students 出場 主催：一般社団法人セキュリティ・エデュケーション・アライアンス・ジャパン ・ HOKKAIDO 学生アプリコンテスト出場 主催：北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会 ・ SCC アプリコンペ出場 主催：株式会社エスシーシー など多数参加			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
320 人	6 人	1.88%
（中途退学の主な理由） 進路変更、心神耗弱・疾患等が主な理由である。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		専門課程		ゲームクリエイタ科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	2830 単位時間／単位		1310 単位時間 ／単位	1460 単位時間 ／単位	60 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
				2830 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
240 人		205 人	0 人		6 人		0 人		6 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。 実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。 それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。 ①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。	
学修支援等	
（概要） 中途退学への取組として、担任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
79 人 (100%)	0 人 (0%)	77 人 (97.5%)	2 人 (2.5%)
（主な就職、業界等） ゲーム開発などのクリエイター系企業、システム開発や運用・保守の IT 系企業が主な就職先であるとともに一般企業への就職も果たしている。			
（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理技術者試験をはじめとする各種検定試験の取得実績のほか、各種コンテストなどへの参加実績がある。			
【主な取得資格】 ・ 基本情報技術者試験（国家資格） ・ 情報セキュリティマネジメント試験（国家資格） ・ 応用情報技術者試験（国家資格） ・ データベーススペシャリスト試験（国家資格） ・ 情報処理安全確保支援士試験（国家資格） ・ マルチメディア検定 エキスパート（CG-ARTS） ・ 情報検定 情報活用試験、情報システム試験（J 検） ・ Microsoft Office Specialist（Microsoft 社） など多数取得			
【コンテスト等の参加・受賞実績】 ・ 第 18 回福岡ゲームコンテスト「GFF AWARD 2025」応募 主催：福岡ゲーム産業振興機構（GFF、九州大学、福岡市） ・ 「ゲームクリエイター甲子園 2024」応募 主催：ゲームクリエイターズギルド ・ 第 13 回「全国専門学校ゲームコンペティション」応募 主催：一般社団法人 全国専門学校情報教育協会 ・ 「東京ゲームショウ 2024」出展 ・ 「北海道学生アプリコンテスト 2025」応募 主催：北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会（HMCC） ・ 「SCC アプリコンペ」優秀賞 主催：株式会社エスシーシー など多数参加			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
237 人	18 人	7.6%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学校生活不適應・意欲低下、心神耗弱・疾患が主な理由である。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		専門課程	IT システム科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1890 単位時間／単位	1072 単位時間 ／単位	622 単位時間 ／単位	196 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			1890 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240 人		107 人	0 人	3 人	0 人	3 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。 実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。 それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。 ①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。なお、出欠及び成績評価状況は、1 年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。	
学修支援等	
（概要） 中途退学への取組として、担任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
67 人 (100%)	5 人 (7.5%)	61 人 (91.0%)	1 人 (1.5%)
（主な就職、業界等） ソフトウェア開発やコンピュータシステムの運用・保守を手掛ける IT 系企業をはじめとして一般企業への就職も果たしている。			
（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理技術者試験をはじめとする各種検定試験の取得実績がある。 【主な取得資格】 ・ 基本情報技術者試験（国家資格） ・ 情報セキュリティマネジメント試験（国家試験） ・ 応用情報技術者試験（国家資格） ・ 情報処理安全確保支援士試験（国家資格） ・ 情報検定 情報活用試験、情報システム試験（J 検） ・ Linux 技術者認定試験 LPIC（LPI 日本支部） ・ Microsoft Office Specialist（Microsoft 社） など多数取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
137 人	11 人	8.0%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学生生活不適應・意欲低下、心神耗弱・疾患等が主な理由である。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		専門課程		ゲームW e b 科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1820 単位時間／単位		974 単位時間 ／単位	476 単位時間 ／単位	370 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
				1820 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
40 人		10 人	0 人		1 人		0 人		1 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。 実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。 ①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。なお、出欠及び成績評価状況は、1 年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。	
学修支援等	
（概要） 中途退学への取組として、担任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 (93.3%)	3 人 (21.4%)	9 人 (64.3%)	2 人 (14.3%)
（主な就職、業界等） IT 系企業をはじめ一般企業への就職も果たしている。			
（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理技術者試験をはじめとする各種検定試験の取得実績がある。 【主な取得資格】 ・ 基本情報技術者試験（国家資格） ・ 情報検定 情報活用試験、情報システム試験（J 検） ・ マルチメディア検定 エキスパート（CG-ARTS） ・ Microsoft Office Specialist（Microsoft 社） 【コンテスト等の参加・受賞実績】 ・ 「北海道学生アプリコンテスト 2025」応募 主催：北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会（HMCC）			
（備考）（任意記載事項） 募集停止のため、2 年生のみ在籍			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	4 人	13.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学校生活不適應・意欲低下が主な理由である。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士		
工業		専門課程	DX マネジメント科		○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
2 年	昼	1830 単位時間／単位	994 単位時間 ／単位	626 単位時間 ／単位	210 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位		
			1830 単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
40 人		6 人	0 人		1 人		0 人		1 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。 それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。 ①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。なお、出欠及び成績評価状況は、1 年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断する。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行う。	
学修支援等	
（概要） 中途退学への取組として、担任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
— 人 （ — %）	— 人 （ — %）	— 人 （ — %）	— 人 （ — %）
（主な就職、業界等） 新設学科のため実績なし			
（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髮講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施する。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 新設学科のため実績なし（令和7年4月入学生より受入れ）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
— 人	— 人	— %
（中途退学の主な理由） 新設学科のため実績なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施する。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
大学併修科	100,000 円	364,000 円	420,000 円	
システムエンジニア科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
ゲームクリエイタ科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
I Tシステム科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
ゲームW e b 科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
D Xマネジメント科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
学校独自の学費支援制度として、「特待生試験」「既卒者入学支援特典」「国家試験合格者特典」「公務員受験者特典」「北海道留学特典」があり、入学金等が免除となる制度である。詳細は「入学志願要項」にて記載している。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hcs.ac.jp/hyouka		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 主な評価項目は、教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献である。 企業委員、有識者委員、地域住民委員、卒業生委員で構成される委員会が、学校の自己評価結果をもとに、学校運営を評価する。評価委員の定数は5名とする。 評価結果については、校長が責任者として毎年3月までに改善策を策定し、次年度の学校運営に反映する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社社員	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	企業委員
元学校法人センター長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	有識者委員
町内会役員	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	地域住民委員
学校法人職員	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	卒業生委員
学校法人役員	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	卒業生委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hcs.ac.jp/information		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hcs.ac.jp/
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H101310400019
学校名（〇〇大学 等）	北海道情報専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人電子開発学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		318人（ ）人	309人（ ）人	327人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	136人	129人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	47人	57人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	41人	37人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	94人	86人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	人	人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				人（ ）人
合計（年間）				人（ ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	11人	0人	0人
計	-	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	12人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	27人	0人	-
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	0人	0人
計	27人	0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。